

協働で、子育てしやすいまちに

みどりの会 佐々木裕子



質問 ↓井口にある市民活動センターは、交通弱者や学生にとっては行き難い。協働によるまちづくりを進めるために、センターの移転と庁内の推進体制の充実が必要と考える。

答弁 ↓趣旨は十分理解しているので、移転は前向きな検討課題としたい。現在、平成十七年度に市民と行政が協働で進めた事業の調査をしている。分析後、協働の推進体制を整備する。

質問 ↓子育てしやすい自治体に向け、全国的に子どもの施策を総合調整する部署を持つ自治体が増えている。津山市も必要と考えるが。

答弁 ↓平成十五年より子育て総合窓口を開設、今年度は子育て支援担当参事を配置し、取り組んでいる。部署を作っても成果が上がらないといけないうので十分研究する必要がある。

少子化対策、空回り

公明党津山市議員 仁木 豊司



質問 ↓合計特殊出生率は、一・二五まで低下、歯止めがかからない状況。子育て支援、社会保障制度の充実、働き方の見直しそれぞれどう考えるか。

て支援、機能の充実、出産一時金の増額など経済的負担を取り除く事が必要ですし、育児休暇や長時間労働の改善など仕事と生活の調和を図る事も重要。

質問 ↓ごみ処理場の建設地は綾部を含む広域から公募、その中から適地を決定しているが。

答弁 ↓これからは、まちづくりをするために必要な施設を広域でという考え、排出量、交通の便など総合的な観点で決められるべき。そして早々と決めてしまつては、また利権が始まる。行政が利権争いの手助けはしないよう。

新市観光ビジョンの内容は

津山再生クラブ 齋藤 弘道



質問 ↓新市観光ビジョンで、周辺地域の観光資源をどう考えるか。今年もたくさんさんの観光客が津山市を訪れたが、現場の声を充分配慮しているか。鶴

山公園の手すり、城東地区の水路は、緊急に整備が必要と思うがどうか。

答弁 ↓新市観光ビジョンは、合併により再構築が必要となり策定した。これまでの城下町観光に、豊かな自然と温泉をからめての観光ルートの設定、矢筈城、岩屋城等、歴史を訪ねるトレンギングルートの開発や、各種の体験型観光への取り組みがある。黒木キャンプ場や阿波森林公園は、四季を通じたプラン等も設定し、PRしていきたい。鶴山の階段の手すりは、文化庁の許可が必要であり、設置方法等、研究したい。

男女共同参画社会と市農業行政について

新風会 倉持 照憲



質問 ↓さんさんプランの到達度・実感・評価・今後の課題とは。

割分担意識の是正等、徐々にあるが、共同参画の意識は確実に浸透しており、一定の成果を上げることができた。

質問 ↓認定農業者数、その内、女性認定者数は、家族経営協定の締結数は。

答弁 ↓認定農業者は二百五名、内、女性認定数は、十一名となっている。家族経営協定締結は現在まで九件となっている。意欲と能力のある担い手の育成は重要課題であり、女性を含めた担い手の育成に努めてまいりたい。県等との連携は重要であり、一体となって推進する。